

「脇本小学校の山田楽伝承活動の取組」

1 学校名

阿久根市立脇本小学校

2 学年・人数

5・6年生（計65人）

3 日時・場所

(1) 練習等の日時・場所

平成29年7月13日（木）山田楽伝承式（6年生から5年生へ）

平成29年8月17日（木）～25日（金）山田楽練習

(2) 発表の日時・場所

平成29年9月29日（金）山田楽打ちならし（宮崎神社奉納）

平成29年10月1日（日）小学校運動会（本校運動場）

平成29年12月16日（土）阿久根市産業祭（阿久根市総合運動公園体育館）

平成30年1月27日（土）障害者支援施設「あいわの里」支援センター訪問

4 伝承・活用に取り組んでいる郷土芸能、伝統行事について

(1) 名称

山田楽（やまだがく）

(2) 由来

今から約400年前、関ヶ原の戦いに出陣する際、互いの士気を高めると共に、勝利を祈願して奉納した勇壮華麗な踊りである。出水郷の地頭であった山田昌巖の考案によるものと言われ、その姓をとって「山田楽」と名付けられ、当時から夏祭り等で盛んに踊られて奉納され、代々伝承されてきた。

(3) 構成等

山田楽の楽器は、①鑊（めはち）、②すり鐘、③大太鼓、④小太鼓の4種類で構成されている。衣装は、①鑊（めはち）は、黒がすり・白半ズボン・紅白たすきを身に付け、紫の頭巾を被る。手には黒の手甲、足には脚絆を付けわらじを履く。②すり鐘は、黒の長がすりに印籠を身に付け、飾り笠を被る。鑊と同様にわらじを履く。③大太鼓は、白地のゆかた・白半ズボン・たすきを身に付ける。飾り笠・黒の手甲と脚絆・わらじは他と同様である。④小太鼓は、はんでん・白半ズボンを身に付け、頭に手ぬぐいを被る。手甲と脚絆は水色で、わらじを履き、飾りの付いた背子を背負う。また、芸態は、戦勝を神社にて祈願する様子「祈願」、戦いに出る合図を表した様子「出陣」など、全部で8つの場面に分けて表現している。

5 保存会や地域との連携の具体

脇本小学校では、次第に衰退していくこの踊りを何とか継承したいという校区民の願いに応えるため、1984（昭和59）年以来、小学校5年生が伝承し、今日に至っている。その経緯から、保存会事務局は脇本小学校内にある。また、本校の全保護者が賛助会員となり、会員の会費（年間300円）により保存会の運営を行っている。

指導者は、地域の有志者2人が中心となり、必要に応じて学校職員も指導する。練習の補助や市内外の祭りの送迎等については保存会育成会の保護者が全面的に支援している。また、地域の行事（地区民運動会や市産業祭、出水麓祭り等）に参加したり、地域の障害支援施設を訪問したりするなど、地域の活性化にも貢献している。

平成 29 年 2 月には、久留米市で開催された第 50 回全国子ども会育成中央会議・研究大会（郷土伝統芸能活動発表）に鹿児島県代表として出場した。

6 文化財伝承・活用の取組の工夫した点

- (1) 学校の教育課程に地域の伝統文化継承を学ぶ学習を位置付け、郷土を愛し、郷土を大切にすることを培うように工夫している。
- (2) 薩摩の「郷中教育」の精神に習い、児童相互に教え合う形式をとることで 6 年生（先輩）から 5 年生（後輩）へ伝承されるよう工夫している。
- (3) 活動を始めて 34 年という歴史があり、児童や地域住民の愛着も深く、児童が地域で活躍する場を作ることで、自己肯定感も育っている。また、山田楽伝承活動が継続することで、児童の保護者にも経験者が確実に増えている。
- (4) 小学校に保存会事務局を設置し、全保護者を賛助会員とすることで、保護者の協力が得られ、活動への支援体制が充実している。
- (5) 昨年度から阿久根市立折多小学校の 6 年生も夏季休業中の練習に参加している。両校の進学先である三笠中学校でも山田楽が継承されていることから、折多小の 6 年生にも進学前に少しでも山田楽に慣れ親しんでもらおうと、合同で練習し、両校の交流を深まっている。

7 取組の様子（練習状況、発表の場等）



【夏休みの練習風景】



【運動会での発表】

8 参加児童生徒・保護者・保存会・教員等の感想・意見

【5 年生児童】

わたしは山田楽で小だいこをしています。あいわの里訪問では、風が強くて寒く、せこが風を受けて転びそうになりましたが、最後まで演舞ができました。あいわの里の方からお礼の言葉をいただいて、1 年間がんばってよかったと感じました。また、わたしたちが 34 代目だということを知ってくれたのでうれしかったです。わたしは、この一年間で学んだことを今の 4 年生にしっかりと引き継ぎたいです。

【5 年生保護者・保存会】

今年も指導者をはじめ、先生方、地域の方々、保護者の皆さんの協力のもと、無事に 6 年生から「山田楽」を引き継ぐことができました。1 人 1 人大変だったことや色々な思いがあったかもしれませんが、将来、この郷土芸能「山田楽」を学んだ貴重な時間、様々な方との触れ合いが、楽しい思い出となり、郷土を愛する力となっていくまでも次の世代へと引き継がれるよう、心から願っております。